

## 第5章 整備効果

**整備メニューを実施することで、10年確率降雨に対する床上浸水を解消でき、治水安全度が向上します。**

### 5.1 浸水面積（■2.5.1～■2.5.4参照）

現況施設による浸水面積と、市街化の拡大が想定される30年後に整備をしなかった場合と、整備を実施した場合の浸水面積及び床上浸水状況を比較しました。

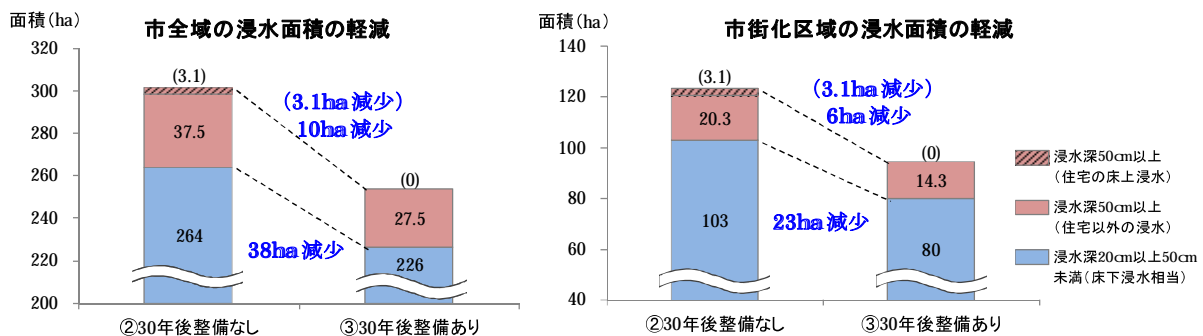
この結果により、0.5m以上の浸水箇所は主に農地で残っていますが、住宅の床上浸水は解消できます。市全域においても、整備後の床上浸水規模は10ha、床下浸水規模は38haの浸水が軽減され、治水安全度が向上しています。

#### ■2.5.1 整備前後の浸水面積

色	浸水深	浸水面積 (ha)								備考
		①現況		②30年後整備なし		③30年後整備あり		整備効果(②-③)		
		市全域	市街化区域	市全域	市街化区域	市全域	市街化区域	市全域	市街化区域	
■	0.2m ≤ h < 0.3m	161	63	162	67	143	54	19	13	床下浸水相当
■	0.3m ≤ h < 0.5m	99	33	102	36	83	26	19	10	
	小計	260	96	264	103	226	80	38	23	
■	0.5m ≤ h < 1.0m	27	11	29 (2.8)	13 (2.8)	20 (0)	8 (0)	9 (2.8)	5 (2.8)	床上浸水相当
■	1.0m ≤ h < 2.0m	6	5	8 (0.3)	7 (0.3)	7 (0)	6 (0)	1 (0.3)	1 (0.3)	
■	2.0m ≤ h < 5.0m	0.0	0.0	0.5	0.3	0.5	0.3	0.0	0.0	
■	5.0m ≤ h	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	33	16	37.5 (3.1)	20.3 (3.1)	27.5 (0)	14.3 (0)	10 (3.1)	6 (3.1)	
	合計	293	112	301.5 (3.1)	123.3 (3.1)	253.5 (0)	94.3 (0)	48 (3.1)	29 (3.1)	—

※（ ）内の数値は、住宅の床上浸水

#### ■2.5.2 浸水面積の軽減



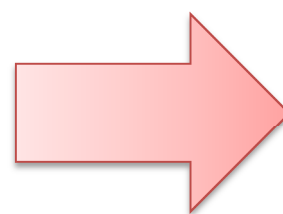
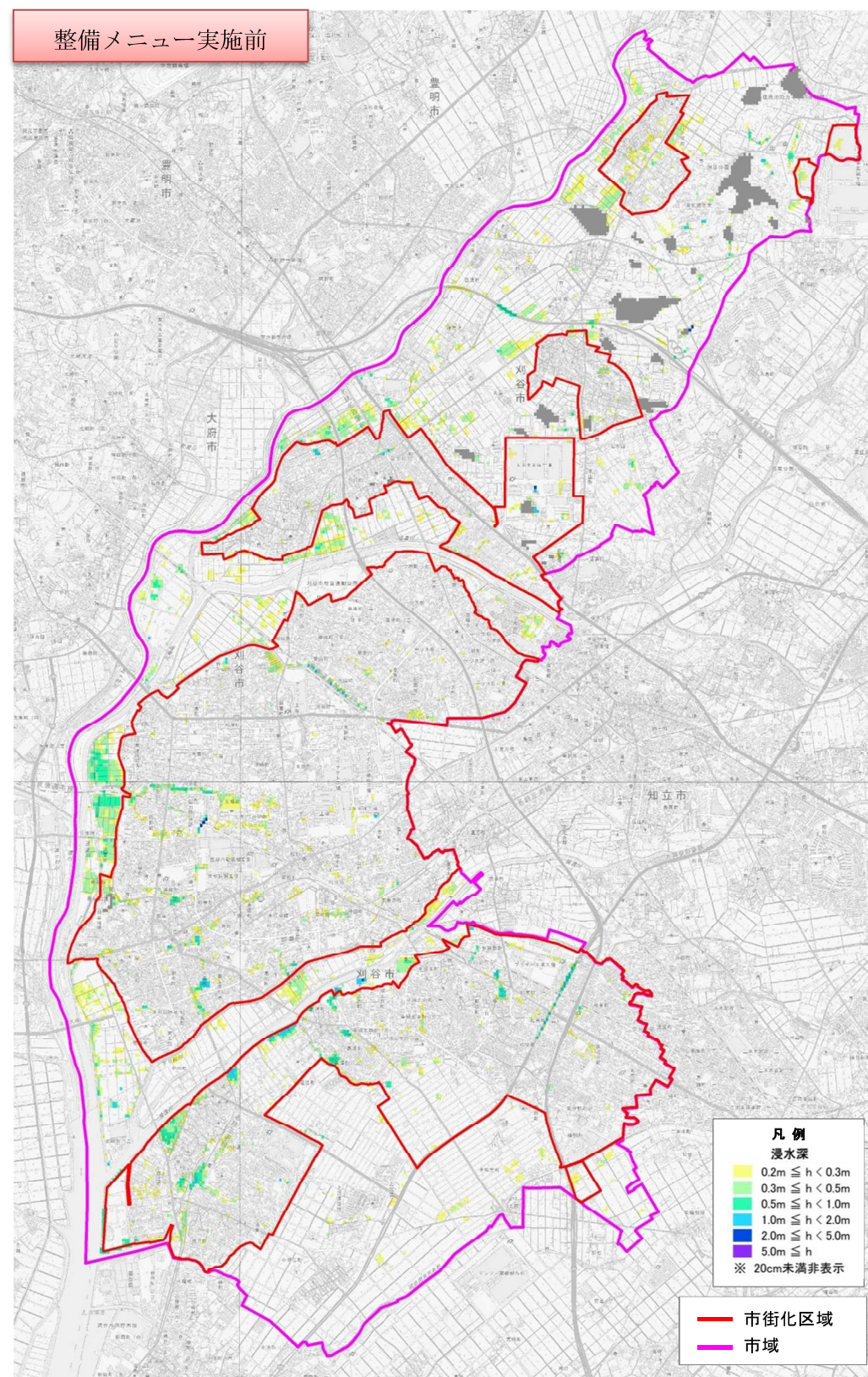
整備効果・・・住宅の床上浸水解消 3.1ha\*→0ha

※詳細調査箇所は除く



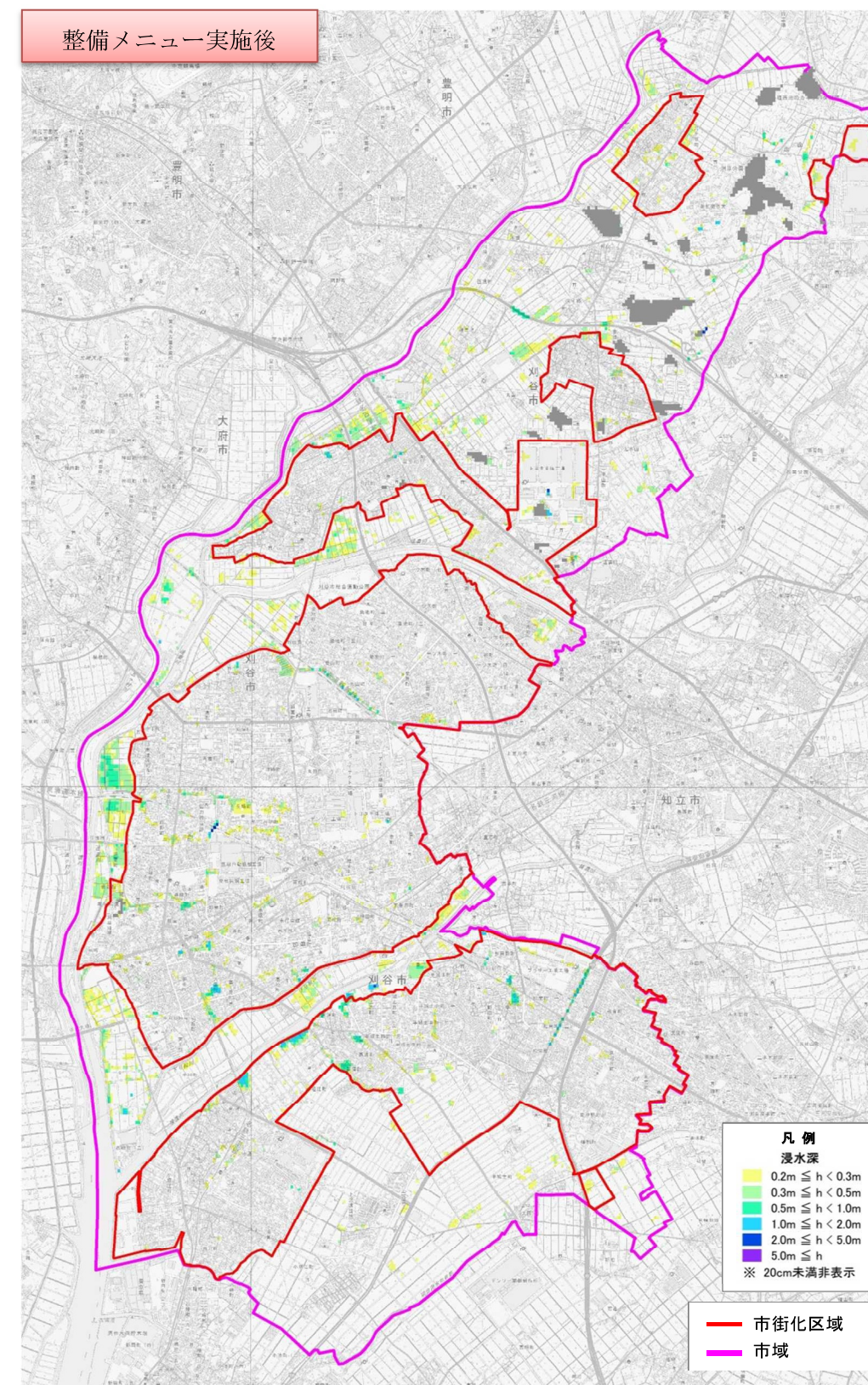


■2.5.3(1) 30年後整備なしの浸水深



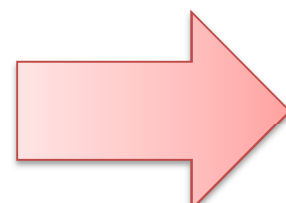
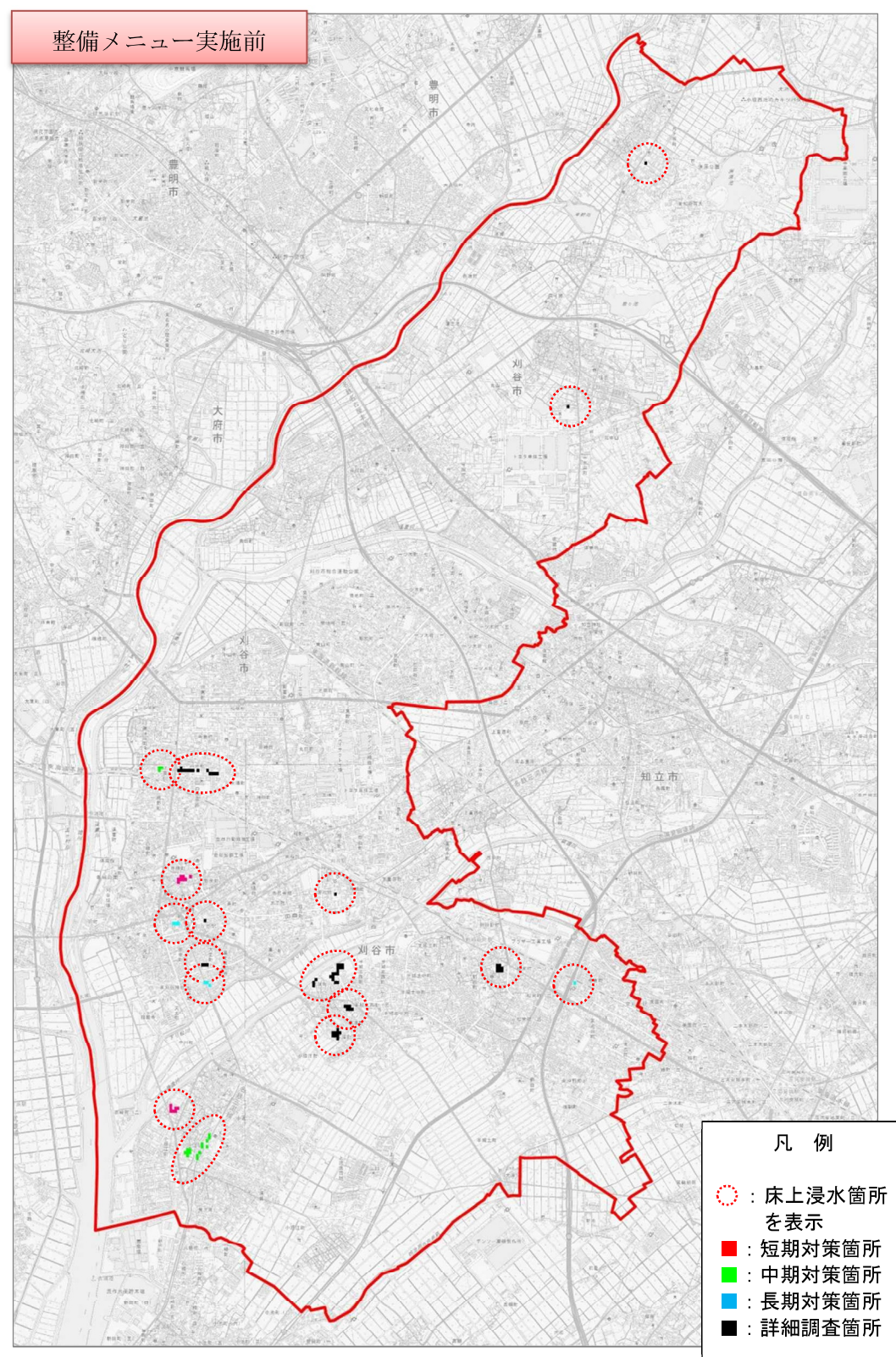
整備を実施すると市街地など主要な箇所を中心に浸水が軽減する

■2.5.3(2) 30年後整備ありの浸水深



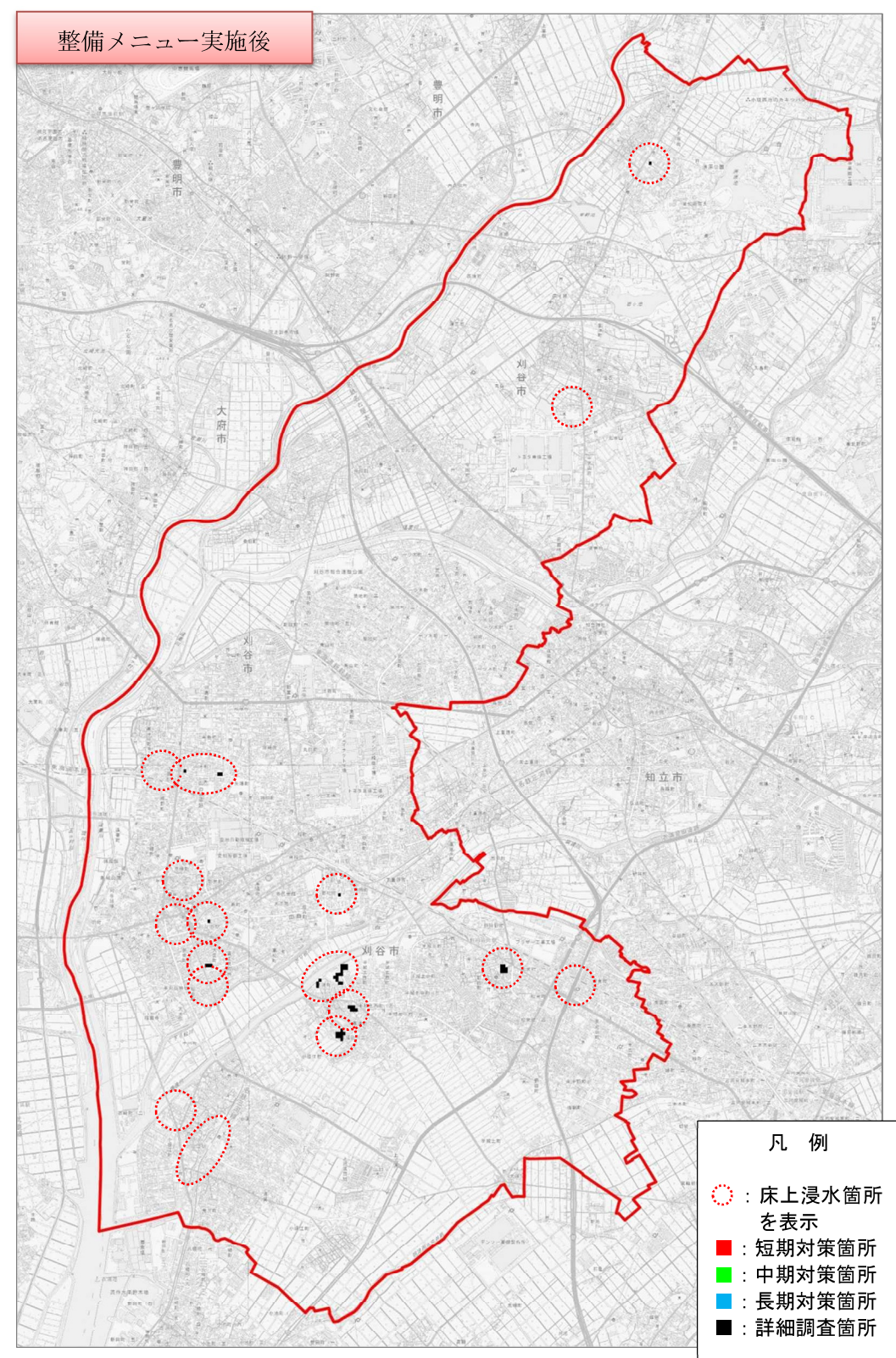


■2.5.4(1) 30年後整備なしの床上浸水箇所



整備を実施すると床上浸水箇所は解消する  
(詳細調査箇所は除く)

■2.5.4(2) 30年後整備ありの床上浸水箇所



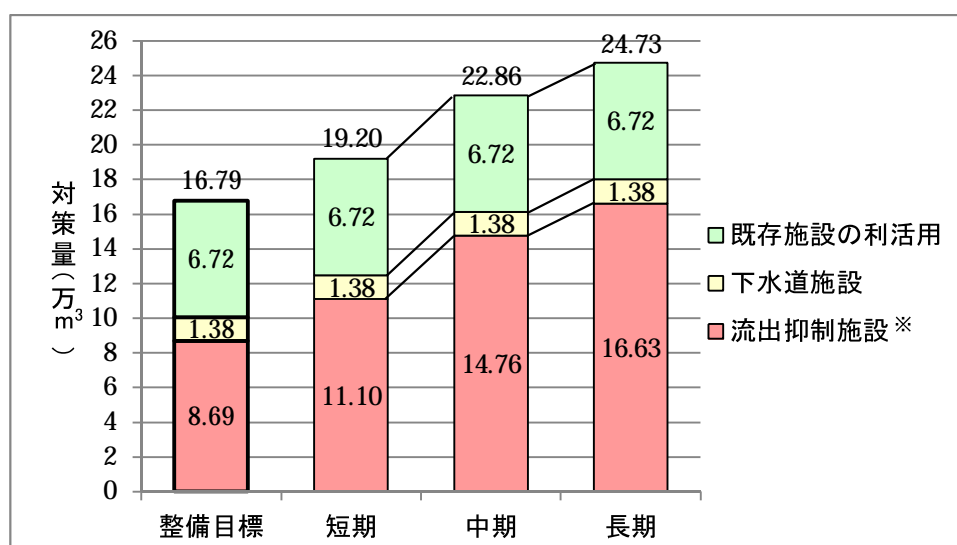


## 5.2 流出抑制施設整備

整備メニューを段階的に整備することにより、流出抑制施設整備と下水道施設整備だけで目標対策量16.79万m<sup>3</sup>を達成することができます。さらに既存施設の利活用（6.72万m<sup>3</sup>）を整備することにより、目標対策量の約1.5倍の対策量を確保できます。

また、「特定都市河川浸水被害対策法」で定める「境川・猿渡川流域水害対策計画」で目標とする対策量8.69万m<sup>3</sup>は短期で達成することとなり、早期に治水安全度の向上を図ることができます。

■2.5.5 段階的な対策量



※流出抑制施設の短期～長期の対策量は、オフサイト施設整備と草野池以外のため池の目標貯留量を示す